

畜産研究所 家畜改良部 ～研究領域：肉用牛～

◆ 主な研究課題・事業 ◆

課題 1 子牛における体温看視システムの開発

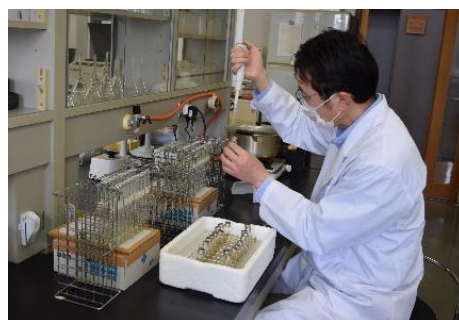
子牛における体調管理の新たな手法として、牛体接触型の温度センサーを用いた体温測定技術の開発と、体調不良等の兆候の変化を飼養者が把握できるシステムの構築を行います。



子牛の体温測定技術の確立

課題 2 消費者型官能評価による「総称山形牛」の食味成分特性の評価

黒毛和種牛肉の特徴である「匂い」について、消費者型官能評価により多品種牛肉との差別化が可能な「匂い」因子を解明し、黒毛和種牛肉の特徴的な「匂い」の評価指標を開発します。



牛肉の香気成分分析

課題 3 肉用牛産肉能力検定（直接検定及び現場後代検定）

将来の種雄牛を造成するため、遺伝的能力の高い県内の繁殖雌牛から計画的な交配により生まれた雄について、その能力を検定しています（直接検定）。

また、直接検定で優れた能力（主に発育）が認められると、その産子について肥育（現場後代検定）を行い、肉の生産能力（量・質）を総合的に判定します。

ここで優良な成績が得られれば、「種雄牛」となります。



種雄牛「幸紀陸」産子の枝肉

課題4 家畜人工授精用精液の生産供給

肉用牛産肉能力検定で選抜された優良な種雄牛の凍結精液を生産し、県内外に供給しています。

これまで「安秀165」、「平忠勝」など全国に誇れる種雄牛を造成してきました。近年では、平成29年に「幸花久」と「神安平」の2頭、令和元年に「福福照」、令和2年に「冬景21」と「美結喜」の2頭、令和3年に「翼満開」、令和4年には「幸紀陸」と「美勝喜」の2頭が種雄牛としてデビューし、さらなる山形牛の品質向上と生産拡大への貢献が期待されます。



種雄牛「美勝喜」

課題5 受精卵移植技術を活用した和牛増産事業

和牛の増頭を図るため、超急速ガラス化保存胚のダイレクト移植技術等を活用して肉質等に優れる和牛受精卵の製造を行うとともに、移植技術の普及と一層の受胎率向上を推進します。



体外受精卵製造作業